

「時代すう勢に逆行する“55才退職強要”等を撤回せよ」

— 中野委員長を先頭に、動労千葉代表団が意見表明 —

「三本柱」の「退職・在職条件」について、 公労委で第一回事情聴取おこなわる（1/22）

昨年12月24日、公労委・関東地方調停委員会にあつせん申請した、いわゆる「三本柱」のうち「年度末における退職者等の取り扱い」に関して、1月22日、公労委会館において第一回事情聴取がおこなわれました。

最初に、中野委員長より、「あつせん申請の理由」が、大略次のように述べられました。

あつせんに至るこれまでの経過、および、当局とわれわれの双方の対立点等については、すでに『日刊』第一八二六号（84年12月25日付）に詳しく述べたとおりです。

事情聴取には、動労千葉からは中野委員長を先頭に山口副委員長、西森交渉部長、片岡組織部長、磯辺交渉部担当特執の5名が出席しました。

事情聴取は、16時より関東地調委の山口（公益）委員、車田（労働側）委員、山崎（使用者側）委員により開始されました。

山口公益委員を司会とする形で、冒頭の手続きとして双方の出席委員の資格・権限、および本日の議題内容の設定がおこなわれました。その中で

①第一回目議題を、「申請理由」「対立理由」の双方の主張とし、②伊東千葉鉄局長が国鉄仁杉総裁の通達をうけ全権を依託された「総裁代行」として出席していること、などが確認されました。

事務分科会主催で、 60・3「動乗勤」の 反合学習会が開かる

一月十日、本部事務分科会主催による「動乗勤制度」についての学習会が千葉運転区講習室で行われた。

学習会には本部乗務員分科・安田事務長を講師に迎え、各支部から12名の事務係の仲間が出席し、改善された動乗勤制度のなかにあつて熱心に学習しました。

「60・3」では、事務係にも10名削減の大合理化攻撃が提案されてきており、全員が真剣に「60・3」粉碎にむけての学習と闘争体制づくりを誓い合い、成功裡に終了しました。

「60・3」と結合して、「三本柱」「三本柱」を必ず粉碎しよう！
続いて、山口副委員長より、細部にわたる説明が述べられたのち、国鉄当局側を代表して伊東総裁代行が、「①交渉経過については組合側の主張の通り、②国鉄が生きてのびるためには今回の合理化もやむを得ない。③『三本柱』には是非御協力を願いたい」とのあいも変らない弁をくり返したにすぎませんでした。

その後、若干の説明、やりとりののち、17時10分、第一回目の事情聴取を終えました。

第二回事情聴取は、一月三〇日に、細部の討論に入ることが確認されました。

「60・3」粉碎の闘いと結合し、この「三本柱」粉碎の闘いを更に強化していこう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

